次期学習指導要領 教科別まとめ　　高校 No.02

審議まとめ（2026年10月5日）を高校の先生向けにまとめ直しました

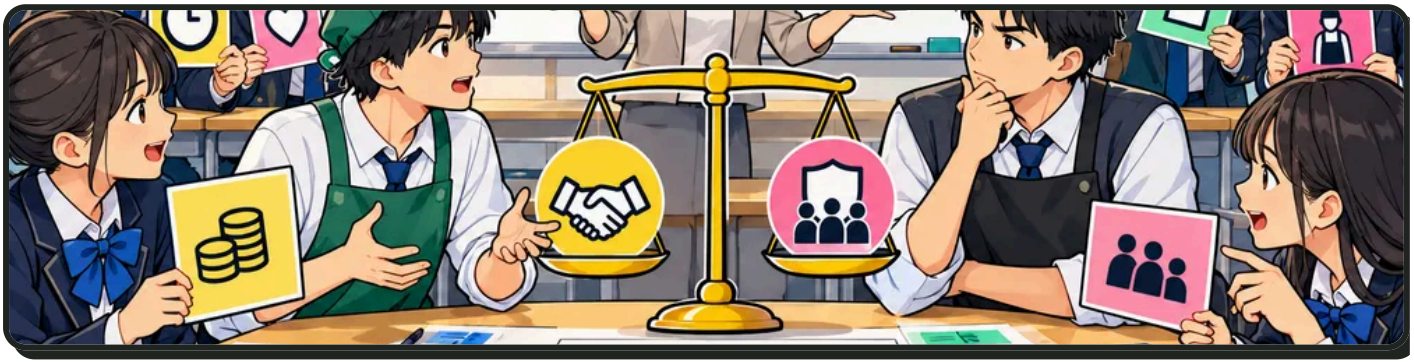
地理歴史・公民

次期学習指導要領で、どう変わる？

覚える社会から、問いと確かな情報で探究する社会へ

高校版





10秒でいうと　科目名は現行どおり。地理総合に導入単元を新設、「公共」の事柄・課題は13→10に精選

やさしく言うと

高校の地理歴史科・公民科は、科目名と単位数は今と同じとされています。そのうえで、探究的な学びを進める見直しが示されています。地理総合には導入単元「地理と私たち」（仮称）を設ける方向です。「公共」の事柄や課題は13から10にしぼる案です。調べる技能では、情報の妥当性を吟味する視点をより重視する方向です。

高校はいつから？

全面実施	2032年度の入学生から（学年ごとに。2034年度に全学年）（見込み）
移行期間	2029～2031年度
告示	2027年度末の予定
教科書	2032年度から学年ごとに新しい教科書（2030年度から検定）

この冊子の中身

1 地理歴史・公民のポイント　4つ
2 主な変更点　7項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）　5項目
4 高校の科目と単位
5 授業時数
6 生成AI・ICTとの付き合い方　7項目
7 今からできる準備チェックリスト　7項目
8 次期を先取りする授業アイデア　1本
9 指導案（試案）　1本
10 現行の学習指導要領・解説（高校）

無料 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

社会・地理歴史・公民の3行要約（全校種）

1. 中学校社会に、地理・歴史・公民をつなぐ「分野横断」の単元として、A・Bを新たに設け、現行のまとめに当たるCを位置付け直す案。地域調査などの地域学習は単元B「私たちと社会（仮称）」でまとめて扱う方向。
2. 学ぶ内容は増やさず、重なる事項や教科書の用語をしぼり込む方向。教科書「を」教えるから、教科書「で」教える授業への転換をめざす。
3. ネットやAIの情報が正しいかを確かめる「情報の妥当性の確認」の技能を新たに位置付け、模擬選挙などの主権者教育や外部機関との連携を強める方向。

※中学校の単元A「社会へのまなざし」・B「私たちと社会」・C「よりよい社会を目指して」、地理総合の導入単元「地理と私たち」は仮称。

1 地理歴史・公民のポイント

4つ

1 地理総合に導入単元

地理総合の大項目Aを再編し、導入単元「地理と私たち」（仮称）とする方向です。地理を学ぶ意味に気付き、科目の見通しをもつための単元です。景観観察で集めた情報をGIS（地図に情報を重ねる仕組み）で見える形にすることが示されています。P151

授業では、たとえば 学校周辺の景観を撮影し、GISの地図上に並べて気付いたことを話し合う。そこから1年間の学びを見通す授業が考えられます。

2 歴史は生徒の「問い」を生かす

歴史の3科目では、生徒が課題意識を問いとして表すことを明記する方向です。教師はその問いを後の学習で生かします。教科書の歴史用語は、網羅的に載せない編集が大事だと周知するとしています。その方向は「教科書等における用語の精選方針（仮称）」で示すとしています。P152 P155

授業では、たとえば 単元の初めに生徒が出した問いを掲示し、単元のまとめで「自分の問いにどう答えるか」を書かせる。そんな流れが一例です。

3 「公共」は13の事柄・課題を10に

公共では、主題を設定しやすくするため、13の事柄や課題を10にしぼる案です。たとえば「職業選択」と「雇用と労働問題」を一つにまとめる例が示されています。協働して追究する活動では、細かな制度の解説より基本的な原理に焦点を当てるとしています。P152 P154

授業では、たとえば「働き方」をテーマに、職業選択と労働問題をまとめて扱い、原理をもとに意見を比べる。そんな授業が考えられます。

4 妥当性を吟味し、主権者として行動へ

高校では、批判的に情報を扱う視点をより重視し、「その妥当性を吟味しながら」調べまとめる方向です。主権者教育では、現実の政治的な事象も扱う方向が示されています。選挙管理委員会などとの連携を進めます。政治的中立性の確保が重要とされています。 P148 P157 P158

授業では、たとえば 同じ政策について立場の違う資料を読み比べ、出典と根拠を確かめてから模擬投票をする。そんな学習が一例です。

2 主な変更点

7項目

1. 学習内容をしぼり込む（具体例が示された）

全体として学習内容は増やさず、重なっている事項などを整理する方向です。小学校4年「県内の特色ある地域の様子」は、3つの地域を同じように扱うのをやめ、2つを選ぶ方向です。中学校地理「日本の諸地域」は、考察の仕方が重なる2地域を関連させて扱い、地域の数を減らすとしています。中学校歴史は文化・政治・外交・社会を一体的に扱って時代の特色をつかむ形に整理し、高校「日本史探究」は近現代の項目を、より上位の考え方でまとめる方向です。 P153 P154

2. 高 高校地理歴史：導入単元の新設と探究的な学びへの見直し

審議まとめでは、地理総合は大項目Aを、地理を学ぶ意味に気付き見通しをもつ導入単元「地理と私たち（仮称）」に作り直し、景観観察で集めた情報をGIS（地図で情報を見える化する仕組み）で示す活動を入れる案です。地理探究はB（2）「現代世界の諸地域」を「現代世界の地誌的考察と課題の研究（仮称）」に作り直し、世界をくまなく扱うのではなく、テーマで区切った地域で課題を考える案です。歴史総合・日本史探究・世界史探究では、生徒が自分の疑問を「問い」として表し、教師がそれを後の学習で生かすことを明記する方向です。さらに日本史探究・世界史探究では、各単元のまとめで探究的に学習した結果を表現することを明記するとしています。 P151 P152

3. 高 高校公民：「公共」の事柄・課題を13から10へ

「公共」のBとCで扱う事柄や課題を13から10にしぼる案で、主題を立てやすくします。例として「職業選択」と「雇用と労働問題」を「雇用と労働問題（職業選択を含む）」にまとめます。話し合いの活動では、細かい制度の説明ではなく基本的な原理に焦点を当てるよう示します。「倫理」と「政治・経済」は、「公共」との関係がよりわかるように示し、探究で扱う課題を社会の情勢に合わせて見直します。 P152 P154

4. 「調べまとめる技能」に情報の正しさを確かめる力を加える

ネットなどで集めた情報の真偽や意図、背景をつかむことがより大切になったため、情報の信ぴょう性を確かめる新しい技能（「情報の妥当性の確認」に関する技能）を位置付ける方向です。目標では、小中学校は「確かな」情報に基づき「適切かつ」効果的に調べまとめる技能、高校は「その妥当性を吟味しながら」調べまとめる技能を身に付ける方向です。図書や新聞を使うことも大事だと注意されています。 P148 P159

5. AIに頼った成果物が通用しない評価を工夫する

AIの要約をそのままコピーする児童生徒への指導が十分でない、という課題が示されました。最終的には児童生徒が自分で考え、自分の言葉で説明し、責任を持つという考え方を当面の基本とします。評価の例として、口頭試問の要素を入れることや、端末のテストモードでブラウザが使えない状態で根拠をもって記述させることが挙げられています。 P146 P159

6. 主権者教育を「深める」「広げる」

主権者教育を学校の年間指導計画に位置付ける方向です。模擬選挙・模擬投票・模擬議会・模擬請願など、子供が主体となって実感をもてる活動を重視し、形だけで終わらず合意形成を図る活動にするとしています。選挙管理委員会や議会事務局、NPO法人などとの連携や、特別活動・総合的な学習（探究）の時間との連携を強める方向です。政治的中立性の確保と、国の通知に沿った指導が重要とされています。 P157 P158

7. 社会の変化をふまえて扱う内容を充実する

国際情勢、自然災害・防災、海洋を含む環境、生成AIの影響、食料安全保障、金融経済、自衛隊、領土、経済安全保障、拉致問題、アイヌに関する理解などの視点で必要な見直しを行う方向です。こども基本法・障害者差別解消法・理解増進法などをふまえた人権の内容や、旧優生保護法やハンセン病の歴史と被害の実態も扱うとしています。研修などで教師の指導力を高めることも必要とされています。 P156

3 現行と次期の比較（新旧対照）

5項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
教科目標の柱書	「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者」に必要な資質・能力の育成。	骨格は小中高共通のまま、**地域・国・世界**を含めたよりよい社会の形成をふまえて「グローバル化する国際社会」の記載を見直す。「主体的に生きる」も、多様な他者と「**協働的に**」生きることをふまえて見直す。 P144 P148
調べまとめる技能		小中学校は「**確かな**」情報に基づき「**適切かつ**」効果的に調べまとめる技能、高校は「**その妥当性を吟味しながら**」調べまとめる技能。情報の信ぴょう性を確かめる「**情報の妥当性の確認**」に関する技能を新たに位置付ける。 P148 P159
高校「公共」のB・Cで扱う事柄や課題	13の事柄や課題。「職業選択」と「雇用と労働問題」は別の事柄・課題。	**10の事柄や課題**にしぼる案。「**雇用と労働問題（職業選択を含む）**」にまとめる案。 P152 P154
高校地理の単元	地理総合は大項目Aから始まる。地理探究にはB(2)「現代世界の諸地域」がある（解説に「世界全体を隈なく取り上げるものではない」との記述）。	地理総合の大項目Aを導入単元「**地理と私たち（仮称）**」に作り直し、**GIS**で景観観察の情報を見える化。地理探究B(2)は「**現代世界の地誌的考察と課題の研究（仮称）**」に作り直し、テーマで区切った地域で課題を探究。 P151 P152
高校の地理歴史・公民の科目と標準単位数	地理総合2、地理探究3、歴史総合2、日本史探究3、世界史探究3、公共2、倫理2、政治・経済2（単位）。	構成（案）では科目名は同じ。**新単位**で地理総合4、地理探究6、歴史総合4、日本史探究6、世界史探究6、公共4、倫理4、政治・経済4。 P81 P82

4 高校の科目と単位

地理歴史（地理総合・地理探究・歴史総合・日本史探究・世界史探究）と公民（公共・倫理・政治・経済）の科目名・構成は現行のままとする案（P82の「構成（案）」の表）。科目内では、地理総合の導入単元「地理と私たち（仮称）」、地理探究の「現代世界の地誌的考察と課題の研究（仮称）」への再編、公共の事柄・課題を13から10へ精選などの見直しが示されている（P151～152）。

5 授業時数

小・中学校の社会の標準授業時数を変えるという記述は、この教科の節にはない。高校は標準単位数が新単位で示され、地理総合4・地理探究6・歴史総合4・日本史探究6・世界史探究6・公共4・倫理4・政治・経済4新単位（現行の2・3単位を新単位に直した値。現行1単位＝新2単位、P81～82）。内容の精選では調整授業時数制度で標準を下回る場合も考慮する（P153）。学年区分は示しつつ学年をこえた前倒し・後ろ倒しを認め、配当時数の目安の示し方は告示文で検討。高校は単位の細分化や増単・減単の仕組みの下で示し方を検討（P161）。

6 生成AI・ICTとの付き合い方

7項目

1. 生成AIやSNSの時代に、情報の真偽を見極める力
生成AIやSNSで大量の情報が簡単に手に入る一方、その真偽や信頼性を判断する力が求められています。資料や情報の真偽・意図・背景をつかみ、信ぴょう性を確かめ、根拠に基づいて自分の考えをつくる力を育てます。P147

2. 新しい技能「情報の妥当性の確認」
「社会的事象等について調べまとめる技能」の中に、集めた・読み取った・まとめた情報の信ぴょう性を確かめる新しい技能として「情報の妥当性の確認」を位置付ける方向です。総合の「情報の領域」などでの学習と関連させます。図書や新聞の活用も大切とされています。P159

3. 社会科のAI活用の基本的な考え方
最終的には子供が自分で考え、判断し、成果物の内容を自分の言葉で説明し、責任を持つという考え方のもとで、課題を追究・解決する学習とその評価方法を改善することが当面の基本とされています。P159

4. AIに頼った成果物が通用しない評価
AI要約をそのままコピーする子供への指導が足りていない実態があり、最後の評価で自分で考えていない成果物が通用しない工夫が急ぎの課題とされています。例として、口頭試問の要素を入れる、端末のアンケートソフトのテストモードでブラウザを使えない状態にして、根拠を示して自分の考えを書かせる、が挙がっています。P146 P159

5. ICTを課題追究の学習の基盤に
社会科の教師の端末活用は「資料を大きく映す」「ネットで自由に調べる」が中心で、道具的な使い方にとどまっています。課題把握（統計資料の検索など）、課題追究（根拠資料・原典資料の収集・分析や共有）、課題解決（レポート作成・発表）の各場面で、学習の質を高める基盤としてICTを位置付け直すとされています。P146 P159

6. 内容：生成AIが社会にもたらす意義や影響
内容を見直す視点の一つとして「生成AIをはじめとするデジタル技術の進展が社会にもたらす意義や影響」が挙げられています。高校の科目の内容例にも「生成AIなどデジタル技術の発展が進む社会」が示されています。P156 資料編(1)P173

7. 主権者教育：SNSや生成AIが判断に影響
社会参加にあたっては、SNSの影響や生成AIの普及が選択・判断に影響することをふまえる必要があり、情報モラルやメディアリテラシーの重要性がますます高まっているとされています。P145

7 今からできる準備チェックリスト

7項目

- [ ] 今すぐ 調べ学習の手順に「情報の妥当性の確認」（だれが・いつ・何をもとに出した情報か、ほかの資料と合うか）を入れたチェック表を作り、ネットだけでなく図書・新聞・統計も使って確かめる習慣をつけます。P148 P159
- [ ] 今すぐ 単元末の評価に、口頭試問の要素や、端末のテストモードでブラウザを使えない状態で根拠を示して書かせる問題を1つ入れ、AIに頼って自分で考えていない成果物が通用しない評価を試します。P146 P159
- [ ] 今すぐ 地域学習で協力してもらった地域の方・施設や、博物館・資料館のデジタルコンテンツの情報を校内で一覧にし、人事異動があっても引き継げるようにします。P146 P160
- [ ] 告示まで 単元ごとに学習上の課題（問い）を1つ立て、その問いの解決に必要な用語にしぼって教える計画を試し、教科書「を」教える授業から教科書「で」教える授業への切りかえを始めます。P147 P151 P155
- [ ] 告示まで 主権者教育を年間指導計画に位置付け、模擬選挙・模擬議会などの活動を選挙管理委員会や議会事務局と事前に打ち合わせて計画します。政治的中立性に関する国の通知を、連携先とも共有しておきます。P157 P158
- [ ] 先行実施まで 高校の歴史総合・日本史探究・世界史探究では、生徒が資料から見つけた疑問を「問い」として書き留め、後の授業や単元のまとめで生かす仕組みを作ります。地理総合では、景観観察で集めた情報をGISで見える化する導入を試します。P151 P152

- [ ] 全面実施まで「統合的な理解・総合的な発揮」を使った単元づくりに備え、校内研修で1つの単元について「覚えさせたい個別の用語」と「到達させたい概念」を書き分ける練習をします。P148 P150

8 次期を先取りする授業アイデア

1本

高1（公共） 1単位時間（50分）

アルバイトのトラブルを「原理」で考える

細かい制度を覚える前に、どんな原理がぶつかっているかを見つけ、利益を比べて判断します。

手順・ワークシート

ねらい

アルバイトをめぐる事例について、契約の自由と働く人の保護などの原理がどのように対立しているかを捉え、立場の異なる人々の利益を比べて、働くことに関するルールが必要な理由を説明できる。

流れ

- **5分** 「アルバイトを選ぶとき、何を見る？」と問い、2つの募集カードを比べて、働く前に確かめるべき条件（時給だけでなく、勤務時間・仕事内容・条件の書き方）を出し合います。
- **8分** 事例カード②を読み、一人で「何が問題か」を書きます。続けて、この場面でぶつかっている原理を原理カードから2つ以上選びます。
- **15分** 4人班で役割（高校生・店長・同じ店で働く人・保護者）に分かれ、立場ごとの利益・事情カードも参考にして、利益衡量シートにそれぞれの利益と、守られないと何が起きるかを書きます。そのうえで、原理カードの原理を手掛かりに「だれのどの利益を、どこまで優先すべきか」を班で話し合います。
- **10分** 資料で、労働条件をはっきり示すことや労働時間などのきまりがあることを確かめ、「契約は自由なのに、なぜ法律で最低限のきまりを置くのか」を班で説明します。働く人と雇う側の交渉力の差に着目させます。
- **9分** 全体で共有します。いくつかの班の結論を比べ、先生は「契約の自由」と「働く人の保護」の関係を図で整理します。職業選択の場面で条件を確かめることが、トラブルを防ぐことにもつながる点を確認します。
- **3分** 振り返りとして、「自分がアルバイトや就職をするときに確かめたいこと」を、今日の原理の言葉を使って書きます。

評価

【知識・技能】契約の自由と働く人の保護の関係を、交渉力の差という考え方を使って説明しているかを見取ります。【思考・判断・表現】立場の異なる人々の利益を比べ、根拠をもって優先の度合いを判断しているかを、利益衡量シートで見ます。制度の名前を覚えているかではなく、原理を使って説明できるかを重く見ます。単元末には、端末のテストモードでブラウザを使えない状態で、別の事例について根拠を示して書かせる問題も考えられます（P159）。

9 指導案（試案）

1本

高等学校第1学年　公共　全6時間（本時は第3時）

アルバイトから考える「働くルール」 ～雇用と労働問題（職業選択を含む）を基本的な原理から考える～

中央教育審議会教育課程部会の審議まとめ（2026年10月5日）で示された、「公共」のBとCで扱う事柄や課題を13から10に精選し、「職業選択」と「雇用と労働問題」を「雇用と労働問題（職業選択を含む）」にまとめる案と、他者と協働して主題を追究する活動では詳細な制度の解説ではなく基本的な原理に焦点化する…

指導案の全文

本時のねらい

高校生のアルバイトをめぐる情報の真偽を公的な資料で確かめ、本人が納得した約束でも無効になる場合がある理由を、契約自由の原則と労働者保護の考え方を用いて説明することができる。

本時の流れ

5分 **導入** 高校生のアルバイトをめぐるSNS風の投稿（自作）4つを読み、それぞれ「正しい／誤り／分からない」を直感で選ぶ。

10分 **展開** 【情報を確かめる】4人グループで投稿を1人1つ担当し、厚生労働省や都道府県労働局などの公的機関のウェブページ、教科書・資料集で確かめる。情報カードに、確かめた内容、表題、発信者、更新日を記録する。

12分 **展開** 【共有】グループ内で担当した投稿の真偽と根拠を説明し合い、4つの結果を表にまとめる。全体で確かめる（ア：条件を満たせばアルバイトにも年次有給休暇がある／イ：6時間を超えて働く場合は少なくとも45分の休憩が必要／ウ：18歳未満は原則として午後10時から午前5時まで働かせてはならない／エ：本人が納得しても、地域の最低賃金を下回る時給の約束はその部分が無効）（根拠：労働基準法第39条・第34条・第61条、最低賃金法第4条。授業の前に厚生労働省の最新の資料で確かめておく）。

13分 **展開** 【基本的な原理から考える】A「公共の扉」で学んだ「契約は当事者の合意によって成り立つ」（契約自由の原則）を振り返り、「本人が納得しているのに、なぜ無効になるのか」をグループで考える。使用者と働く人の交渉力の差に気付き、法が労働条件の最低基準を定めて働く人を守っていることを捉える。続けて、店の事情（人手不足・人件費）と働く高校生の事情（健康・学業・安全）を比べ、ルールが何と何のバランスをとっているかを話し合う。

10分 **まとめ** 端末を閉じ、本時の問いへの答えを、情報カードの根拠を一つ以上挙げて紙に書く（5～6行）。数人が発表する。次時（労働問題と働く人の権利、専門家への質問づくり）の予告を聞く。

PDF版：shidoan-ko1-kokyo-hataraku-rule.pdf（ダウンロードコーナー）

10 現行の学習指導要領・解説（高校）

PDF **高等学校学習指導要領（平成30年告示）（本文）**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_03.pdf

PDF **高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編**
https://www.mext.go.jp/content/20220802-mxt_kyoiku02-100002620_03.pdf

PDF **高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編**
https://www.mext.go.jp/content/20211102-mxt_kyoiku02-100002620_04.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

ご利用について

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P○ は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P○** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）

サイトで最新版を見る